

2013年度

# 事業報告

地域別事業報告

テーマ別事業報告

その他の活動報告



## 研修

- **受入研修**…海外から参加者を日本に受入れて行う研修
  - ・ **技術研修**…ものづくり技術やサービス手法を習得するための研修
  - ・ **一般研修**…日本語や日本の社会、企業文化などを学ぶ導入研修
  - ・ **実地研修**…個々の企業で、企業固有の技術を学ぶ研修
  - ・ **管理研修**…企業経営や工場管理等の経営手法を習得するための研修
- **海外研修**…日本から海外現地に講師を派遣して行うセミナー型の研修

※1959年から2013年度までの累計実績

受入研修:174,639人

海外研修:194,711人

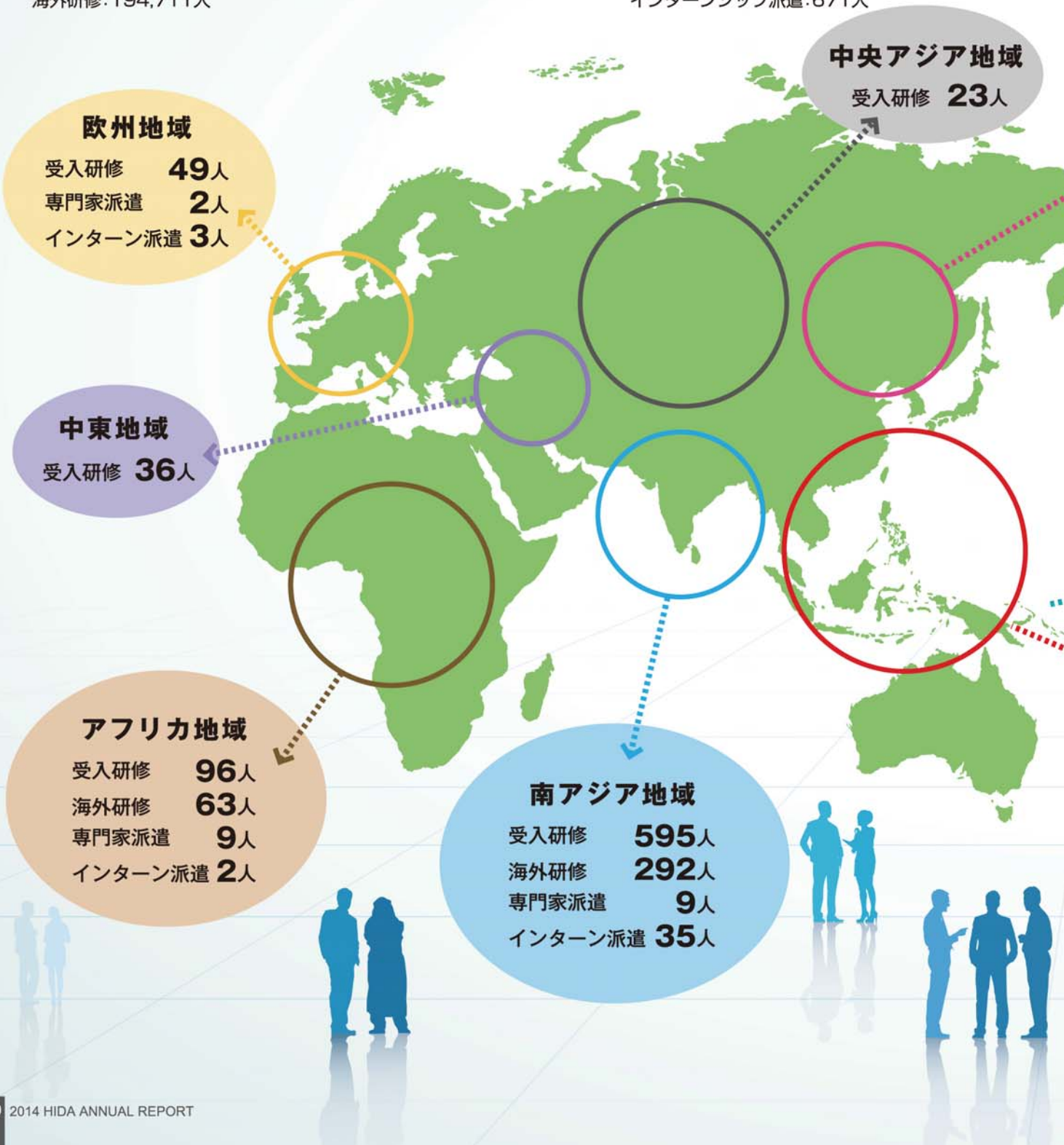
## 派遣

- **専門家派遣**…海外の企業、業界団体などでのOJTによる技術指導を目的とした我が国専門家の派遣
- **インターンシップ派遣**…日本人の若手社会人・学生と海外の企業・団体をマッチングし、インターン生として派遣

※1979年から2013年度までの累計実績

専門家派遣:7,660人

インターンシップ派遣:671人



# 事業報告

● 日本と海外諸国の産業及び人材の育成

● 日本と海外諸国の相互の経済発展、  
友好関係の増進

## 東アジア地域

受入研修 203人  
海外研修 96人  
専門家派遣 25人  
インターン派遣 1人

## その他地域 (北米・大洋州)

受入研修 4人  
専門家派遣 4人

## アセアン地域

受入研修 2,478人  
海外研修 1,388人  
専門家派遣 282人  
インターン派遣 110人

## 中南米地域

受入研修 175人  
海外研修 145人  
専門家派遣 4人  
インターン派遣 1人

# 1 アセアン地域

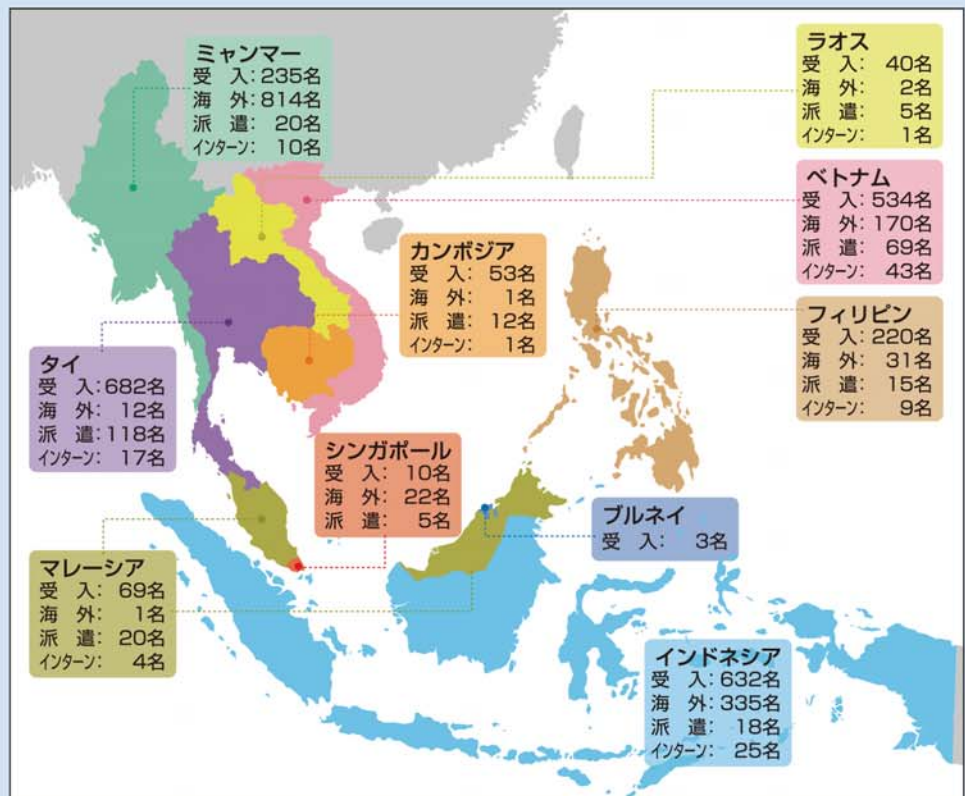


アセアン地域は、今や世界経済のひとつの牽引役として著しい成長を続けています。2015年の「ASEAN経済共同体」の実現に向けて、経済面、社会面、安全保障面などさまざまな分野の統合を計画しており、新たな成長ステージに向けて地域一体となって歩を進めている状況です。日本企業による海外進出が加速する中、チャイナプラスワンの候補地としてアセアン地域は更なる注目を浴びています。域内製造業の中心となっているタイ、経済発展が著しいインドネシアやベトナム、劇的な政策転換を遂げ民主化改革を進めているミャンマー、新たな生産拠点として着目されつつあるカンボジアやラオスといった、域内各国と日本の経済関係は今まで以上に緊密かつ重要なものになっています。

HIDAでは近年の日本企業の現地展開を支援する形で、アセアン地域に対して最も多くの事業を行っています。2013年度は自動車、電子部品、IT、化学、産業機械を中心に、幅広い分野の技術移転を図り、現地の日系企業はもとより取引先である地元企業を含めた地場産業全体の生産性や技術力の向上に貢献しました。また、同地域の産業基盤や社会基盤のインフラ整備需要が大きくなっていることを踏まえ、日本のインフラ・システムのパッケージ型輸出を人材育成の観点から支援するとともに、現地の貿易投資環境を整備し、貿易投資の円滑化を推進する技術協力事業を展開しました。

アセアン地域における国別実績(2013年度)

受入研修生数	<b>2,478名</b>
海外研修生数	<b>1,388名</b>
派遣専門家数	<b>282名</b>
派遣インターン数	<b>110名</b>



## Focus タイ



2013年度HIDAでは、さまざまな事業を通じてタイの人材育成を支援しました。当年度に日本に受入れた研修生は682名、現地に派遣した我が国専門家は118名と、ともに国別では最も多くの実績をあげました。日本に來日し研修を受けた人材の半数以上にのぼる370名は、主として現地日系企業に勤務する産業技術者で、HIDAの研修を通じて、自動車、産業機械、非鉄金属、化学など自身の専門分野における固有技術を習得するとともに、帰国後に学んだ技術を伝え活かすための能力を向上させました。専門家派遣については、当年度に中小サービス業を対象とした新たな事業を開始したことも相まって、サービス産業の専門家を最も多く派遣し、現地の問題・課題を解決するためのOJTによる指導を行いました。

同国はアセアン地域の生産拠点として中心的な役割を担っています。そこで、経済産業省からの委託事業として、貿易投資等の制度や環境整備を図る事業を横断的に展開し、同国の持続的発展に貢献するとともに、日本企業の進出をさらに加速するための社会インフラ・基盤整備に対する支援を行いました。

## Focus ベトナム



HIDAではベトナムに対しても積極的な人材育成支援を展開しました。2013年度に日本に受入れた研修生は534名と、タイ、インドネシアに次ぐ第三位、専門家派遣ではタイに次ぐ69名の派遣実績をあげました。域内の多くの国と同様、ベトナムへは多くの日本企業が進出していることを背景とし、日本への受入研修生の約4割にあたる200名が現地日系企業の産業技術者で、彼らはHIDAの研修を通じて、専門分野の個別技術を習得しました。なお、タイやインドネシアと異なり、自動車分野ではなく、機械や電気電子、IT、建設分野などを専門とする研修生が多いという特徴がありました。

また、経済産業省から委託を受けて実施した日本人の海外インターンシップ派遣事業では、派遣先国としては最多となる43名の若手社会人・学生を同国に派遣し、インターンシップを通じた現地における人脈の構築と、グローバルに活躍できる能力の習得に貢献しました。

## Focus フィリピン



HIDAでは、日本とフィリピンとの経済連携協定に基づき、日本の国家資格を取得し、看護師・介護福祉士として就労するために來日した看護師候補者・介護福祉士候補者に対する6カ月間の受入研修を2009年度以降実施しています。2013年度についても、81名のフィリピン人介護福祉士候補者に対して、介護施設等での就労に入る前の導入研修として、日本語や日本の社会・文化に関する研修を実施し、候補者たちの円滑な就労に向けた支援を行いました。

また、同国への人材育成の特徴として、サービス分野の技術移転や日本的サービスマインドを持った現地人材育成に対するニーズが高く、派遣された専門家の2/3はサービス産業における専門家となりました。

## Focus マレーシア



HIDAでは、経済連携協定締結国であるマレーシアと我が国双方の産業高度化を図るため、2006年度より自動車部品産業および金型技術者の育成を目的とした人材育成支援プログラム(MAJAICOプロジェクト)を実施しています。(詳細は下記参照)

2013年度もマレーシアの自動車部品メーカーの製造工程へのリーンプロダクションシステムの導入、定着を図るため、我が国自動車産業の専門家延べ8名による現地部品メーカー等への巡回型指導を行いました。

### MAJAICOプロジェクトとは？

MAJAICOプロジェクトは、2006年7月に発効した日・マレーシア経済連携協定に基づき、自動車関連産業分野について両国政府が合意したマレーシア・日本自動車産業協力(MAJAICO)プログラムによる技術移転事業です。(事業実施期間：2006年度～2011年度)

HIDAでは2006年度から、自動車部品産業の強化を目的に現地の現場改善指導を行うA1プロジェクト、マレーシア工業標準化機関の金型センターの技術者を育成するためのA2プロジェクトを実施してきました。このうちA1プロジェクトについては5年間にわたるプロジェクトの大きな成果を現地に定着させるために、2011年7月よりポストMAJAICO-A1プロジェクトを実施しています。(2011年7月～2013年6月までは国庫補助事業、2013年7月以降はマレーシア政府から委託事業)

MAJAICOプロジェクト累計派遣人数(ポストMAJAICO-A1含む)

	期 間	累 計 人 数
補 助	2006年7月～2013年6月	273人
委 託	2013年7月～(継続中)	8人

## Focus カンボジア



日本企業の現地進出の動きに対応するように、カンボジアでの人材育成ニーズは着実に増加しています。2013年度、HIDAでは現地日系企業に勤務する11名の産業技術者を日本に受入れ、日本語研修や日本の文化社会事情を理解するための導入研修を行うとともに、研修生別の研修計画に沿い、鉄鋼、建設、通信機器分野の固有技術の研修を実施しました。

また、当年度新たに開始した中小サービス業を対象とした事業では、飲食業や理容業といったサービス産業における我が国専門家10名を現地日系企業に派遣し、「おもてなしの精神」などの日本的サービスマインドを持った現地人材の育成に向けた助言・指導を行いました。

## 2 南アジア地域



### South Asia region

インドをはじめとする南アジア地域は、近年著しい経済成長を遂げており、豊かな人的資源や中間層の勃興に伴う都市化・消費市場の拡大など、その変化に世界が注目しています。

同地域における日系企業の進出も加速しており、今後も日本からの投資や貿易の拡大が期待される中、現地の人材育成ニーズはますます高まることが予想されます。

#### 南アジア地域における国別実績(2013年度)

受入研修生数

595名

海外研修生数

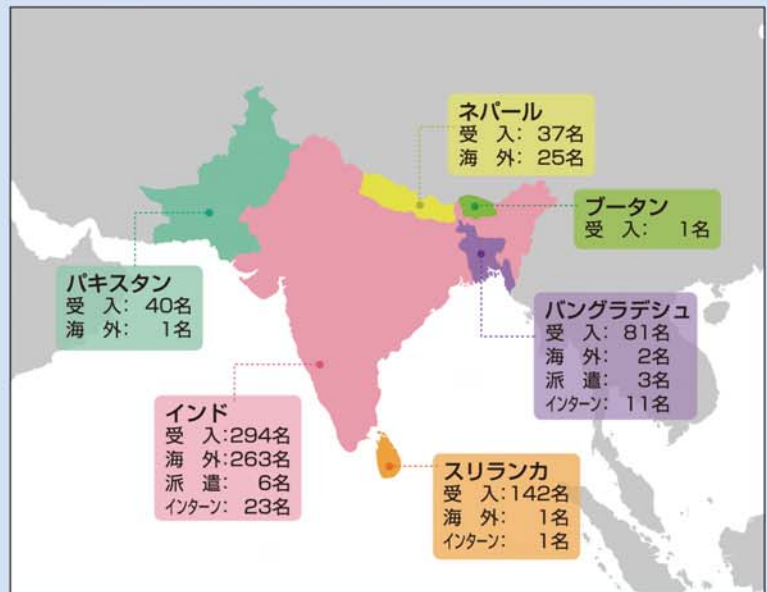
292名

派遣専門家数

9名

派遣インターン数

35名



#### Focus スリランカ



HIDAによるスリランカの人材育成支援は、活発な現地同窓会(JASTECA)と連携して行う、現地企業の経営者・管理者層を対象にした研修事業が主軸となっています。2013年度は、日本で行う企業経営やリーダーシップ能力の向上を図る研修等に142名が参加しました。

このうち、「スリランカ企業経営研修(略称:LKCM)」コースは企業経営者、経営幹部を対象として、日本企業におけるマーケティング、財務戦略、生産管理、人的資源管理などの主要なマネジメント手法を学び、自社の経営目標の実現に向けて必要な経営理念や経営戦略を策定する能力の向上を図りました。

また、公的資金によらない事業として、JASTECAと連携し、日本の銀行業におけるシステムやサービスを学ぶための講義や見学などによる研修を行いました。

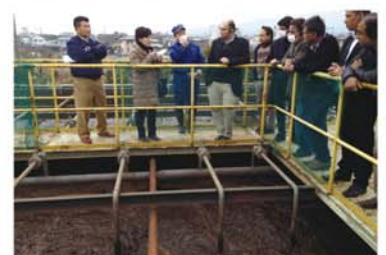


銀行業を対象とした研修の見学風景

#### Focus バングラデシュ



バングラデシュはスリランカ同様、現地同窓会の活動が活発であり、同窓会と連携を図りながら、81名の産業人材を日本に受け入れ、企業経営や環境技術などに関する知識習得を目的とした研修を実施しました。同国の経営管理者を対象とした「グリーンプロダクティビティ研修コース(略称:BDGP)」は、環境に配慮した生産管理を学ぶ経営者コースとして開設し、製造業の経営者、経営幹部が知っておくべき今日の環境テーマの概要を理解した上で、省エネルギー活動の推進や廃棄物処理に注目し、それぞれについての取組や手法を学びました。また染色工場やプラスチックのリサイクル現場の見学を行い、環境と生産効率に関する環境管理手法への理解を実例を通して深めました。



グリーンプロダクティビティ研修の企業見学

# 3 東・中央アジア地域



## East and Central Asia region

我が国と地理的に近く、経済的に密接な関係にある東アジア地域の持続的な発展は、日本経済の成長にとって必要不可欠です。特に、中国と日本との経済関係は、いまだ緊密かつ相互依存적であり、両国の良好な経済関係を維持することは重要な課題となっています。また、石油や天然ガスなど豊富な資源を有する中央アジア地域においては、資源開発に加え、産業技術の輸出や環境システムの供与、人材育成などの多面的な交流促進が求められています。

東・中央アジア地域における国別実績(2013年度)

受入研修生数	<b>226名</b>
海外研修生数	<b>96名</b>
派遣専門家数	<b>25名</b>
派遣インターン数	<b>1名</b>



※日本人9名に対し異文化コミュニケーションセミナーを実施

### Focus 中国



チャイナプラスワン戦略が加速する中においても、中国はいまだ日本の最大の貿易相手国であり、日本企業の進出数も最も多く、戦略的互惠関係のもと安定した日中間の経済関係を維持することが重要です。2013年度HIDAでは、中国に対する政府の技術協力政策を踏まえつつ、公的資金を使わない新たな人材育成支援スキームとして行っている新国際協力事業を中心に、現地日系企業の従業員に対する日本語研修等を行いました。

発展および貿易投資の拡大に寄与するとともに、日本との貿易投資の活性化につなげることができました。

### Focus モンゴル



2013年度HIDAはモンゴルに対し、貿易投資環境の整備や現地企業の長期的な労働関係の安定化に向けた支援を中心に実施し、58名の産業人材が日本での研修に、93名が現地でのセミナーに参加しました。その中でも、モンゴルの石炭技術者の育成研修や同国の地球観測衛星システムの導入に向けた研修を実施し、モンゴルの自立的かつ持続的な経済

### Focus ウズベキスタン



HIDAでは、中央アジア地域の中でも、特にウズベキスタンに対して、市場経済化の推進や産業振興支援に重点を置いた人材育成を展開しています。2013年11月には、現地の企業経営幹部や上級管理者を日本に受入れ、「ウズベキスタン企業経営研修(略称:UZCM)」コースを実施しました。本研修コースは2011年2月にHIDAとウズベキスタン国家財産管理委員会(SPC)との間で締結したMOUに則り、SPCとの協力のもと実現したもので、2011年度、2012年度に続き、3回目の実施となりました。参加者は研修を通じて日本企業におけるマーケティングや生産管理、人的資源管理などのマネジメント手法について理解を深め、自社製品やサービスの競争力の強化につなげました。

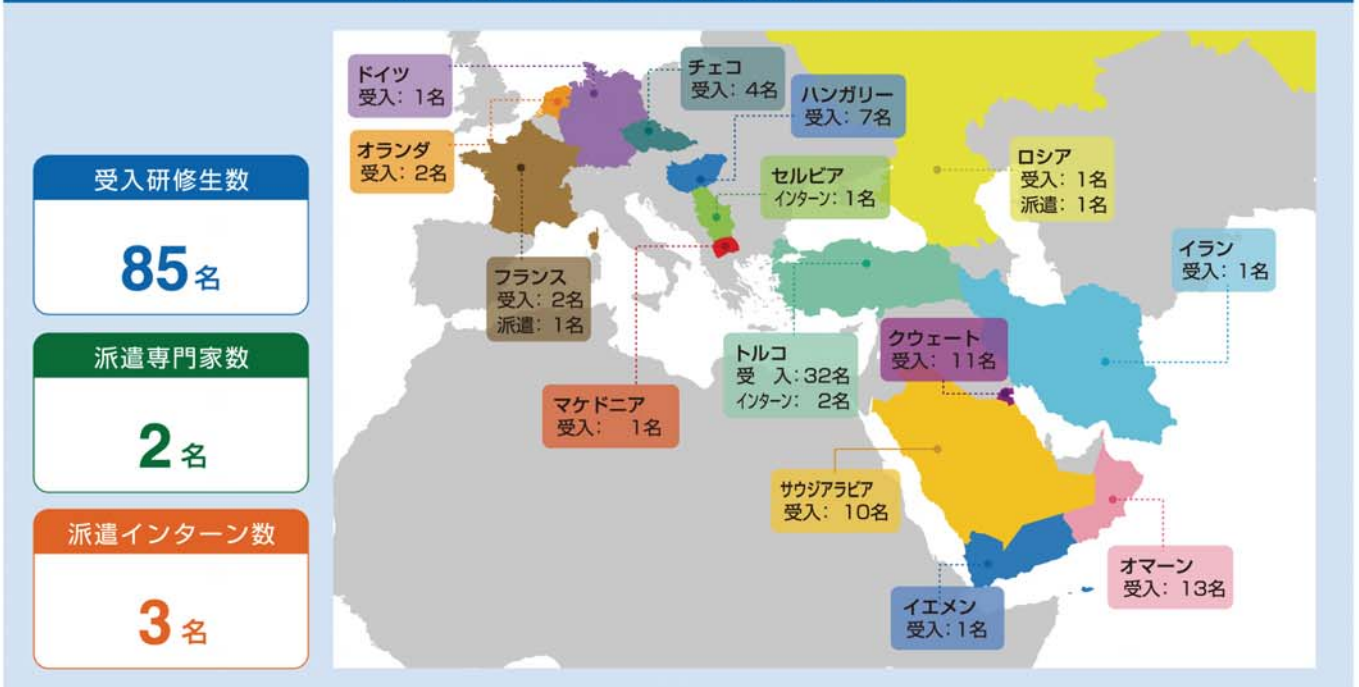
# 4 中東・欧州地域



## Middle East and European region

中東地域は、政治面で不安定な国があるものの、豊富な天然資源を背景に経済活動はおおむね好調な状況が続いており、日本にとって石油資源の主要な供給源である同地域との良好な経済関係を維持していくことが重要です。多くがODA非対象国である中東地域には、HIDAの長年の研修ノウハウを活かした公的資金によらない事業を中心に、経営管理や生産管理などの管理技術の移転や、日本語の学習支援などを行いました。また、欧州地域については、ODA対象国であるトルコを中心に、計11カ国に対して事業を行いました。

中東・欧州地域における国別実績(2013年度)



### Focus クウェート

クウェートは、豊富な石油資源の輸出産業を主とし、良好な経済状態を維持していますが、中長期的な視点に立つと、製造業をはじめとした資源産業以外の分野の成長が必要です。2013年度HIDAでは、現地の石油化学会社からの要望を受け、現場改善活動などのトヨタ生産方式(TPS)の考え方や実践事例を学ぶ研修を日本で開催し、計10名が参加しました。研修参加者は講義や見学を通じて、生産性向上や無駄の削減を目指して、TPSや現場改善の手法を自社の生産方式にどのように活かしていくのかについて考察を重ね、研修最終日には、自社におけるTPS導入や改善活動の3年間にわたる計画概要を立案しました。また、同じく研修最終日に受験したTPS検定試験には10名全員が合格しました。

### Focus トルコ

2014年1月、HIDAはHIDA-AOTSトルコ同窓会と連携し、日本の製造業におけるものづくりの考え方、並びに品質および生産性向上のための管理手法について学ぶ「トルコ生産管理研修(略称:TPRM)」コースを実施しました。トルコから来日した22名の研修参加者は、講義、見学、演習を通じて得た経験や知識をもとに、各自の所属企業が抱える問題を明確にし、それらを解決し自社の競争力を強化するための行動計画を策定しました。



見学先の企業にて



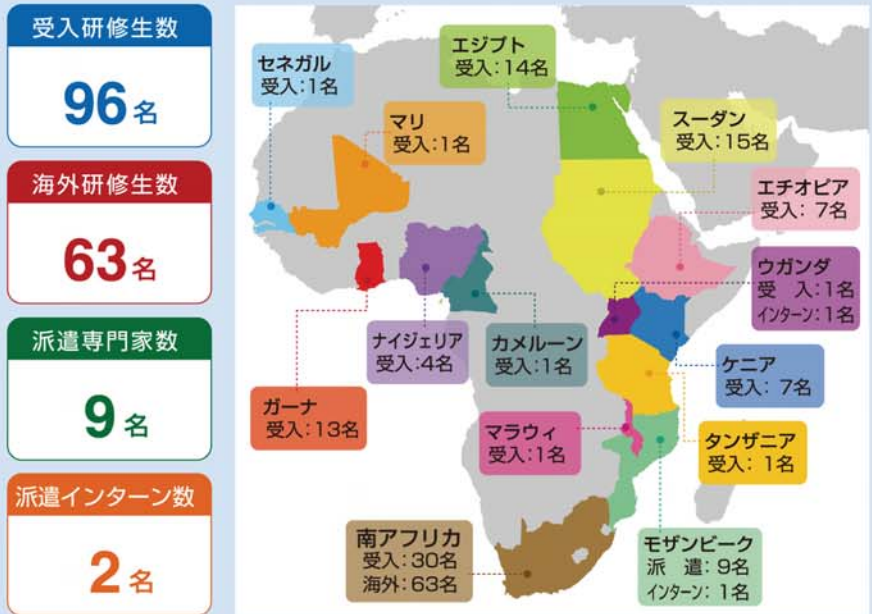
# 5 アフリカ地域



## African region

アフリカ地域は近年、豊富な資源や消費の拡大などを背景に、高い水準で経済成長を続けています。アフリカと日本の関係も、以前の「援助」主体から「投資」主体へとシフトしており、投資環境の改善や人的インフラの整備が重要な課題となっています。2013年6月には第5回アフリカ開発会議(TICAD V)が開催され、同地域の経済開発における民間セクターの役割や民間セクターと開発援助の連携など、日本らしい支援の推進が協議されました。また、安倍内閣総理大臣が2014年最初の訪問先としてアフリカを訪問し、日本の政策や日本企業の組織文化には、人材を大切に、育成することこそが発展の礎となるなどの考え方があることを強調するなど、アフリカにおける人材育成を通じた技術協力の重要性が高まりつつあります。

### アフリカ地域における国別実績(2013年度)



### Focus 南アフリカ共和国

南アフリカは、アフリカ54カ国中最大の経済規模を誇り、今後の経済成長に高い期待が寄せられています。他方、同国では頻発するストライキが問題となっており、進出する日系企業の最大の課題のひとつとなっています。2013年度HIDAでは、現地企業の長期的な労働関係の安定につながる現地セミナーを実施しました。また、鉄道システムの高度化を支援する研修を日本にて実施しました。



グループディスカッションの様子

### 事例 労使関係の理解促進に向けて

2013年11月、ヨハネスブルグとケープタウンにおいて、南アフリカ企業連合(BUSA)を協力機関とし、現地の人事労務管理、経営企画、生産等の分野の中間管理者層に対する管理者育成研修を行いました。このプログラムでは、組織の「人」に焦点を当てた管理の基礎を学習するための研修として、長年にわたり日本の産業界で管理者研修として採用されている監督者・管理者養成プログラムである「Management Training Program (MTP)」を実施し、合わせて63名が参加しました。本プログラムでは、過去にHIDAが労使関係の安定化を目的として実施した「使用者団体のための職場改善研修(ERWM)」コースの参加者によるプレゼンテーションが行われ、発表者は、HIDAの研修コースを通じて学んだ知識、またコース内で策定した行動計画とその後の進捗等を研修参加者と共有しました。本プログラムを通して、労使協調を特徴とした日本の人事労務管理の考え方を同国に普及し、多くの企業管理者に理解してもらうことにより、現地進出後の日本企業の円滑な労使関係、人事労務管理の実現につながることを期待されます。

# 6 中南米地域



## Latin America region

中南米地域は、過去の経済危機の教訓を踏まえた財政政策のもと、多くの国がFTA等の経済・貿易面での協定を通じて市場開放政策を推進しています。日本は同地域に対して、経済連携協定や投資協定などの経済的枠組みを強化しながら、巨大市場として、かつ資源や食糧の供給源として経済関係を強めているところです。日系企業の進出は、製造業を中心に緩やかながらも着実に伸びており、産業基盤の底上げや経済基盤の整備のためにも現地の人材育成がますます求められています。



### 中南米地域における国別実績(2013年度)

受入研修生数	175名
海外研修生数	145名
派遣専門家数	4名
派遣インターン数	1名



### Focus ペルー



2013年度HIDAではペルー同窓会との連携により、5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)による職場環境の維持や改善活動を実践することを目的とした研修を実施しました。この研修は、同国における「5S大賞」創設プランの一環として実施されたもので、多くの現地企業において5S活動を導入しているものの、活動が形骸化してしまうなど導入後の定着が滞っているという現地の声を踏まえ、日本における5S活動の実例を見学し、導入におけるポイント、活動の定着と活性化の方法を習得することを目的とし、参加者の課題解決を支援しました。

携して実施しました。ブラジルから来日した6名の参加者は、展示の見学や経済産業省を表敬訪問し、加えて「ブラジルにおける自動車産業の現状と金型産業の現状」と題したセミナーを展示



インターモールド・商談会の様子

会会場で行い、ブラジルの自動車産業での政策や、金型産業の現状について日本人を中心とした多くの展示会参加者に紹介しました。また、参加者は期間を通じて展示会出展企業との間

### Focus ブラジル



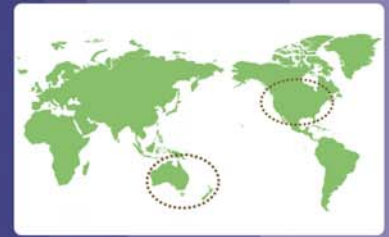
ブラジルに対する特徴的な取組として、日本で開催された金型や金属加工技術の展示会「インターモールド2013」への参加を通じてブラジルと日本との新たなビジネス機会の創出を図るプログラムを、HIDA-AOTSサンパウロ同窓会と連



インターモールド・セミナーの様子

で商談会を行い、日本の金型企業がどのような最新技術を持っているか、また日本の金型企業が海外金型企業に求める技術への理解を深め、日本の金型企業関係者との関係構築を図りました。

# 7 その他(大洋州・北米地域)

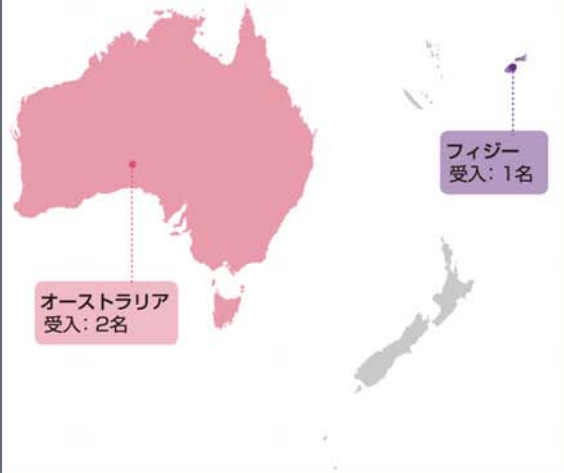


## Other regions

2013年度HIDAでは、僅かではあるものの、大洋州(フィジー、オーストラリア)や北米(アメリカ)においても各国産業界のニーズに則した人材育成を展開しました。

### 大洋州・北米地域における国別実績(2013年度)

#### 大洋州



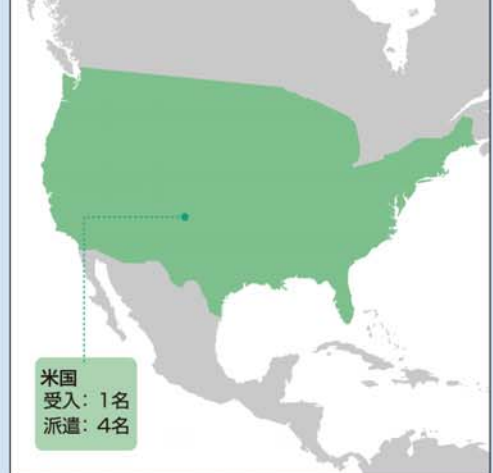
受入研修生数

4名

派遣専門家数

4名

#### 北米



### Focus アメリカ合衆国



HIDAでは2013年度に新たに開始した中小サービス業を対象とした人材育成事業において、我が国専門家4名をアメリカに派遣し、現地に進出した日系の飲食業や小売業などの店舗等における日本的接客方法や販売方法、店舗運営の指導を行いました。



店舗管理を行う現地従業員

### Voice

#### アメリカに伝える日本の「花」文化 (株式会社花大)

東京で生花や造花の販売を行っている当社は、商品の販売や装飾イベント事業を展開するため、100%出資にて、2013年度にカリフォルニア州に1号店を開店しました。それに伴い、現地店舗の従業員に対して、日本式の花き商品知識、店舗販売や店舗管理方法について指導を行うため、HIDAの制度を利用して専門家を派遣し、現地従業員の商品知識や販売技術の向上、店舗管理の効率化を図りました。

日本から専門家を派遣して丁寧な指導を行ったことで、現地従業員の意識レベルが大いに向上するだけでなく、現地従業員の販売技術や店舗管理手法を磨くために熱心に指導に取り組む派遣専門家様子が、「日本文化を伝承するために、わざわざ日本から直接指導に来た花屋」として認識され、当社に対するアメリカ人顧客の好印象につながりました。

